

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	人工海浜、磯場の創出		

●人工海浜、磯場の創出

【解説】

砂浜の侵食や埋め立てによりコンクリートの直立堤や消波堤となっている場所では、離岸堤、人工リーフ、養浜、緩傾斜堤などを併せた面的防護方式により海岸線を防護するとともに、養浜に際して粒軽の異なる砂礫や転石を配置することで、多様な生物が生息できる人工海浜や磯場の創出が可能です。

【具体的な工法・配慮事項】

●人工海浜

人工的に養浜する場合の各諸元は、物理的安定性や水理条件、防災機能に基づき設定されますが、生物の保全を目的とする場合には、目的とする生物に応じて①後浜天端幅、②後浜天端高、③前浜勾配、④外浜勾配、⑤養浜材などについて考慮する必要があります。

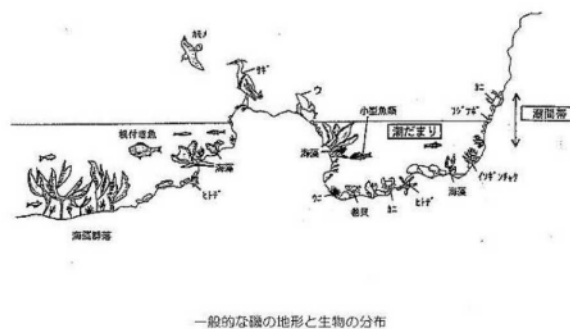


出典：1

内容

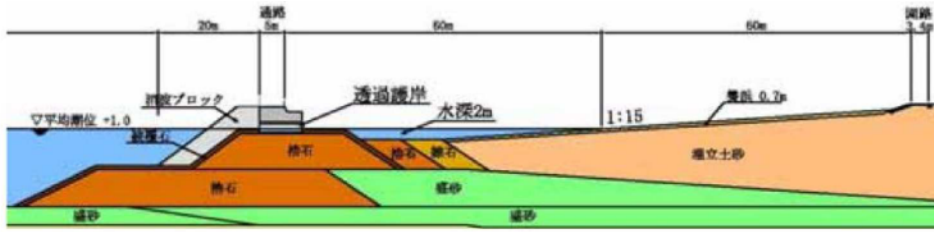
●人工磯

人工磯の各諸元は、物理的安定性や水理条件、防災機能に基づき設定されますが、生物の保全を目的とする場合には、目的とする生物に応じて①法線・法面勾配、②天端高、③法面形状・材質、④消波工・根固工、⑤排水工などについて考慮する必要があります。



出典：1

【事例】



出典:2

【場所】

兵庫県神戸市 神戸空港

【環境配慮の内容と方法、工法】

- ・ 人工海浜の基本形状を決定するにあたって、多様な生物の生息空間の創出や水質浄化機能の向上を図るべく、物質循環に着目した環境設計を実施した。
- ・ 最も潮通しが良好で大型海藻の繁殖に適した透過護岸の背後に、捨石及び雑石からなる平均水深 2m の磯場を設けた。
- ・ 底生生物としてアサリを想定し、アサリの生息環境である潮間帯～潮下帯を広くとるため、砂浜の勾配を緩く 1:15 とした。

留意点

参考資料

- 1 「自然共生型海岸づくりの手引き」農林水産省農村振興局・農林水産省水産庁・国土交通省港湾局・国土交通省河川局
- 2 「神戸空港における環境創造への取組みについて」近畿地方整備局研究発表会平成 20 年度調査・計画・設計部門 I